

真田図書館
サポーターだより

第 19 号

真田図書館開館しています！！



新型コロナウイルスが未だに収まってくれません。初めて感染が確認されてから、コロナ禍は3年目に入りました。昨年秋ごろには感染者の減少も進み、このまま元の生活に戻れるのではないかと希望の持てる時期もありました。

しかし第6波の到来以後、3回目のワクチン接種も終わらない中、4回目の接種を・・・といったフレーズにもわかにささやかれ始めています。



感染警戒レベルもなかなか下がりず、みなさまにご利用いただいている図書館の日常や、サービスにも影響が出たままになっています。

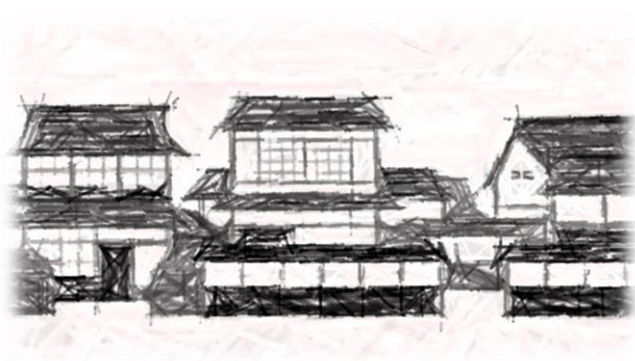
上田市のどの公共施設も厳しい状況であることには変わりなく、令和3年度中、一部実施できなかった事業はありましたが、「ご利用のみなさまに喜んでいただく」という真田図書館サポーターの会の基本に立ち、講座やイベント等、コロナ禍をかいくぐりながら、できる限り実施してきました。

真田図書館もまた、サービスの一部制限をお願いしてはいますが、休館することなくみなさまをお迎えできていることを喜んでおります。

ウイルス感染症の収束と、普通の日常生活を取り戻せることを願いながら、これからもみなさまの身近な施設としてご利用いただきますようお願いします。



真田塾開催報告



「真田塾」は、私たちの住む地域の自然、文化、歴史、人等について学び、自らの生活課題の研究・解決を図るため、いろいろな分野で活躍されている地域に関係する方のお話をお聞きし、地域の文化や歴史、自然などの魅力を再発見し、私たちの生活に活かしていこうということを目的にしています。

令和3年度は真田塾としては初めて同一テーマの元でシリーズ講座を開催しました。

株式会社タツノの相談役である



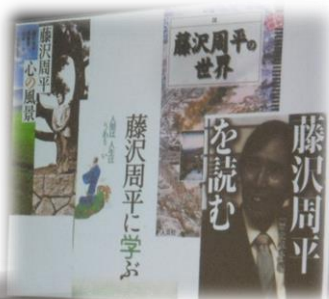
「龍野彰宏氏」を講師にお迎えし

「時代小説を楽しむー藤沢周平の世界ー」

をテーマに、全8回の開催予定でしたが新型コロナウイルスの感染拡大の影響により3回の講座が中止となった結果、開催できたのは5回となりました。



多くの読者から支持され、没後20年以上を経過しながら、いまだに関連書籍が出版されるなど、人気の衰えることのない藤沢作品について、各回それぞれに作品を取り上げ、藤沢作品の時代背景である江戸時代を生きた人々の世界、人情や友情、男と女や親と子、庶民や武士の生活などを、人々を取り巻くさまざまな事象をテーマに作品をご紹介いただきながらご講演いただきました。



令和3年度真田塾「シリーズ講座」
演題 時代小説を楽しむー藤沢周平の世界ー
第1回 藤沢周平のすべて
講師 株式会社タツノ相談役 龍野彰宏氏

Sanada Library Concert

Duo Twins

真田図書館開館 10 周年記念演奏会

10 月 31 日(日曜日)

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に開催できなかった「真田図書館開館 10 周年記念演奏会」を開催しました。

市民の皆さんが図書館をより身近な生涯学習拠点として親しんでいただくとともに、文化・芸術に触れる機会を提供することを目的に開催しました。

【Duo Twins】チェロ:西山健一氏 コントラバス:西山真二氏

～長野市出身の双子の兄弟で NHK 交響楽団所属～



(演奏曲)エドワード・エルガー:愛のあいさつ

J. Sバッハ:G線上のアリア

ピアソラ:リベルタンゴ ほか



真田地域内の学校の先生が真田図書館の仕事を体験

Part I

温かい場所

真田中学校 坂口 香織

教員生活十年目の研修として、異業種体験研修というものがある。そこで、真田図書館にお世話になることにした。

研修を通して、最も印象に残ったことは、「温かい場所」であるということだ。まず、職員のみなさんの温かな対応に安心する。さらに温かさを感じた出来事があった。私も研修の中で、おすすめ本の紹介を書いたり、壁画飾りを描いたりさせてもらった。そのとき、いかに利用客のみなさんに伝わるかを考えながら作ったが、これがなかなか大変だった。この体験から、職員のみなさんが、日頃から利用客のみなさんを理解し、いかに伝わるかを考えて工夫してくださっていることを感じた。利用客のみなさんへの対応だけではなく、図書館の環境作りも温かいのだった。

さらに、研修を通して、真田図書館にはボランティアの方がいて、花壇の整備や壁画飾り、掃除などをサポートしてくれていたことを知った。また、館内には寝転べる児童書コーナーがあり、その片隅には授乳スペースもある。これなら子連れのお父さんお母さんも安心できる。このように、たくさんの方が関わり、細かなところまで心配りするからこそ、真田図書館の温かさがあるのだと感じた。

私の故郷でもある真田図書館には、これからもずっとお世話になると思う。市の図書館で、いつもは見えない図書館の姿を見ることができて、本当に良かった。図書館に関わる全ての方に感謝したい。

異業種体験を通じて

教職員の十年目の研修の中の一つに「異業種体験」があります。そこで、日頃からよく利用させていただいている真田図書館で、図書館のお仕事を体験させて頂くことになりました。

利用者として真田図書館を利用している時には、きれいで、本がを見つけやすく、子どもがいる私にとってはキッズコーナーがとても居心地が良いと感じていました。今回、真田図書館のお仕事を体験してみて、この快適さには職員の方と地域の方の日々の心がけが有ることを知りました。

まず、私が驚いたのは、利用者の方を「お客様」と呼び、丁寧に対応していることです。お客様が本を探しているときには、そっとその場を離れ、本を探す邪魔にならないようにすること。逆に、何か困っている様子の時には、必要に応じて声をかけること。お客様が来館した時、帰る時には「こんにちは」「ありがとうございました」と声をかけること。このような丁寧な対応をしてくださっているから、真田図書館は居心地が良かったのだ、と改めて分かりました。

地域の方々のご協力をいただいていることにも驚きました。施設がきれいに保たれているのは、毎朝、地域のサポーターの方が来て掃除をしてくださっていました。本がを見つけやすく並べられているのも、職員の方だけでなくサポーターの方もお手伝いしてくださっていました。

異業種体験を通して、居心地の良い真田図書館は、職員の方と地域のサポーターの方が作って下さっているのだと知りました。お客様の立場に立って、思いやりを持って対応するということは、学校教育の場でも通ずるものがあります。今回の研修を通して、学ばせていただいたことを今後の学校教育の場で活かしていきたいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

傍陽小学校 中村 春奈

2年越しのコロナ禍で会活動も自粛気味のなか、振り返ってみると3年度は前年度に比較し感染レベルの間隙が上手に使えて、感染対策の強化もでき業務部会の多くと「講演会やコンサート」が実施でき、概満足できる年でもあったのではないかと。この様子で、今年こそは全体活動が出来るようになるといいね。と期待はしてみたところではある。

しかし、3月まん延防止等重点措置の解除後、更に感染者が増加の一途である。人流が増えた影響で、特に20代等若者の感染割合が上昇しており、また高齢者の死亡も多いとのこと。更にこれまでよりも感染力が1、3倍と強いBA・2への置き換えが進み第7波の恐れも懸念されるという。

誰もが何か油断は無かっただろうか。見回すと、スーパー等でも出入口に設置された消毒薬を使うことなく平然と出入りする、またはマスク無の若者時には高齢者も見かけられるようになった。多人数での飲食の機会も増えていると推測もでき、互いにコロナ慣れにより緊張感が薄れているのではないかと。

今後、若年層にもワクチン接種が進むという抑制材料はあるが、撲滅に向けてもう一度初心に帰ることも必要だ。「多人数飲食はしない・会食は少人数で黙食・人と接触にはマスクの着用」の徹底である。

このままでは、3年越しのコロナ禍で高感染が続く限り、すべての活動が中止となってしまう恐れも出てくるかもしれない。

お互いに、志に従って、コロナが収束し全ての活動が再開できることを待っている。互いに加齢と共に体力の保持が難しくなるが、ウォーキングは、ストレス解消や免疫力を高め感染を防ぐことが出来るという。その日に備えてこれからの季節、水仙、また桜の好時期ともなる、農作業の合間にさわやかウォーキングに心がけ、家に閉じこもることなく体力と健康保持に努めたいと思う。

運営部会長 若林 雅一